

2年国語「スーホの白い馬」授業記録

京都 吉川恵美子

○追求課題

スーホは、あせまみれになった白馬の体をなでながら、兄弟に言うように話しかけました。「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」

○解釈

今まで、スーホにとって、白馬は、思わぬところで手に入れた、移動や運搬、羊飼いの仕事用の重宝な存在であった。しかし、「おおかみ事件」をきっかけにして、白馬を「兄弟」のように考えるようになった。ひつじをおおかみから守るために、自分が殺されかねない相手であるおおかみとたたかい続けたという白馬の行動は、スーホの想像を大きく超えるものだった。それは、

- ・肉食のおおかみの前に、草食の馬が立ちふさがると、普通なら、考えられない。
- ・素早いおおかみが、あっちに行ったりこっちに行ったりして、白馬をかわそうとしただろうが、その素早いおおかみの動きを先読みしてふせぎ切り、ひつじを一頭もとらせなかった。
- ・ずいぶん長い間、そうしたたたかいを続けていた。(体力の限界は優に超えていただろう。)
- ・白馬自身も、無傷。(おおかみと、うまく距離を置いていたのだろう。)
- ・馬には、鋭い牙も爪もないから、両方の前足を挙げて威嚇しながらたたかっていたのだろう。

などが考えられ、白馬がこんなことを自分一人でやったことに、スーホは驚き、感動した。スーホの驚きは、羊を一頭残らず守り切ったということよりも、おおかみという相手とたたかっていたことにある。羊を守ってくれたことについてなら、「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。」でよいのだろうが、「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」とまで言わしめたのは、何なのか。それは、たたかっていた相手がおおかみであったことにある。たった一人で、こんな恐ろしい思いをさせたしまった白馬に、「怖かっただろう？白馬。もう、お前ひとりに、こんなつらい思いはさせないよ。これからは、どんな時でも、ずっと、ぼくとおまえはいっしょだよ。」と、スーホは話しかけた。スーホにとっての生業である大切な羊を、自分の意志で守ったという白馬の行動は、スーホに兄弟がいたなら、羊飼いの仕事を、一緒にやっていたらから、まさに、兄弟のような行動を白馬がとったということになる。この「おおかみ事件」は、白馬が、スーホにとって、まるで兄弟のようなかけがえのない存在に変わったできごとだった。白馬は、スーホが、子馬の時に命を救ってくれて、その後これまで心をこめて世話してくれたということに答えて、ここまでのことをスーホにしてくれたのだとスーホは思い、「これから先、どんなときでも、ぼ

くはおまえといっしょだよ。」とまで言ったのだろう。

○中心問題 : なぜ、スーホは、白馬に、「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」と、兄弟に言うように話しかけたのか？

・対立課題:「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」と話しかけたのは、次のどっち？

① ひつじをまもってくれたことに対して言っている。

② おおかみとたたかっていたことに対して言っている。

・「兄弟に言うように話しかけた」理由は？(なぜ、「兄弟」なのか?)

◎授業記録

*前時に、4の場面(⑫~⑮段落)で、「これは、絶対におかしい。変だ。」というところを出し合い、問題作りまで終えている。

T1:昨日から、④の場面に入っています。そして、みんなで、問題を作りました。それは、「なぜ、スーホは

C:「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」と言ったのか。

T2:白馬に言ったのかということの問題にしました。そして、その理由をいろいろ言ってくれました。そうすると、みいなさんが、「おおかみからひつじを守ってくれたから言った。」と言いました。その中には、ふたつのことがふくまれています。「おおかみから守ってくれたから。」か「ひつじを守ってくれたから。」なのか。どっちについて、スーホは言っているのかということで、手を挙げてもらいました。では、もう一度、どちらかに手を挙げるところから始めます。そのために、4の場面を、ことばひとつひとつに気を付けながら、ゆっくりと読んでいきます。

C:(ゆっくり読む)

T3:では、ひつじをまもったからということが、「これから先・・・」を言った最大の理由だと思う人は、①。おおかみとたたかったからだという人は、②。

C:指示調べ ① 22人 ② 3人

T4:はい、理由。

C1:わたしは、②です。13段落で、「わかい白馬が、おおかみの前に立ちふさがって」って言っているから。(みいな)

T5:それがなんで、おおかみにつながるのか、そこをもう少し、くわしく言ってみて。

C1:.....

T6:みんなさんが言った「おおかみの前に立ちふさがる」ってどういうことだろう?やってみよう。先生がおおかみになるし、なおきさん、白馬になってみて。白馬の後ろに、20頭のひつじがいるかこいがあるんやな。(「立ちふさがる」の意味、動き、「おおかみの道をふさぐ」のだということ、おおかみのきばや鋭い爪に対して、白馬には、そういうものはなく、前足を挙げて、けたたましく鳴きながら威嚇したんだろうということ、おおかみの素早さ、ずいぶんと長い間たたかっていたということなど、子どもと一緒に動いてみて確認。)こん

なふうに、おおかみとたたかっていたから、「これから先・・・」と言ったのだと、みいなさんは言うんだね。他に。

C 2：えっと、ぼくは、①です。ひつじのかこいのそばに、白馬がいたから、ひつじを守っていたから、①だと思います。(りくと)

T 7：え？どこどこ？

C 3：なんで、わざわざ、ひつじのかこいに行ったん？(じゅき)

T 8：おお！白馬は、どこで寝てるの？

C：かこいの外。

T 9：馬には、馬小屋があるはずやんな。

C 4：そうやのに、なんで、わざわざ、かこいのそばまで行ったん？(じゅき)

T 10：なあ。そうやなあ。馬小屋から駆け付けた。ひつじをまもるためやったら、ひつじのそばに置いとく。でも、馬に、ひつじをまもる仕事ってあるの？

C：ない。

T 11：自分で行った。

C：スーホのため。(みいな)

C 5：私は、②に変えたいんやけど、それは、14 段落の「きっと、長い間おおかみとたたかっていたのでしょう。」って書いてあって、そのあとに言っているから、②だと思います。(なお)

C：おお～(口々に)

T 12：これは、「きっと」やから、誰が考えたはったん？

C：スーホ。(口々に)

T 13：事実じゃないかもしれん。でも、「きっと」やから、かなり、事実に近い。証拠があるんやな。何から、思ったのか？

C：体じゅうあせびっしょり。(口々に)

T 14：なんでなん？

C：ず～っと長いことひつじをまもってた。いっぱい動いたから。(口々に)

C 5：おおかみが素早いから、いっぱい動かなあかん。(みいな)

T 15：おおかみよりも早く、道をふさがなあかん。さっき、先生となおきさんでやってみたなあ。あんなふうにとたたかっていたから、あせびっしょりなんやなあ。それだけか？この汗は？

C：え？

T 16：汗かくって、いっぱい動いた時のほかに、どんな時にかく？

C 6：なんか、こういうのって初めてやんかな。(じゅき)

C 7：あせってた？(むつき)

T 17：おお！前にもこういうことあったの？

C 8：前にもあったんやったら、冷静に考えて行動していたけど、初めてやから、あせって

た。

C 9：ひつじが殺されるかもって、なんか、焦ってた。(りくと)

T 18：ひつじが殺されるかもって焦って、汗かいたん？

C 10：違う。ひつじを守ってるけど、自分もおおかみにおびえてた。

T 19：おお。怖いよなあ。自分を殺すことができるおおかみが敵なんやで。こういう時の汗ってなんていうか知ってる？

C 11：冷や汗。(むつき)

T 20：よう知ってるなあ。冷や汗と言うのは、焦ったとき、どうしようと思った時、恐怖を感じた時に、なんか変な汗が出てくるねん。そんな汗も、先生は、含まれているんやないかなあと思う。

C 12：けどさあ、白馬ってさあ、ひつじが大事やと思って守ってるからさあ、自分の命なんかよりもひつじの命の方が大事やと思ってたんと違うの？(なおき)

C：だから、守るんやんか。(口々に)

T 21：白馬は、ひつじを大事やと思ってたんやなあ。でも、スーホは、このことを今までからそんなふうにしてたのかな？

C 13：思っていない。(しんべい)

T 22：他の人は、どう？

C：思っていない。(口々に)

T 23：いつ、そのことに気が付いたの？

C：ひつじをおおかみから守っていたとき。(口々に)

T 24：スーホがはっと目を覚ました時、白馬がおおかみから羊を守っていることの予想がついたの？

C 14：何が起きているのかわからない。(なお)

C 15：動物の鳴き声だけやったらさあ、おおかみが来ているのはわからへん。

T 25：何が聞こえたん？

C：けたたましい馬の鳴き声と、ひつじのさわぎ。(口々に)

T 26：けたたましいって、どんな声？

C：きゃ～、ぎゃ～！(口々に)

T 27：うん。みんなが大騒ぎして、先生に怒られている時みたいな。うるさくてたまらない。これは、なんで騒いでる？

C：おおかみを威嚇してる。(口々に)

T 28：ふだんは、馬は、こんなことしいひんよなあ。馬は、たたかうものと違うもんなあ。ひつじは、なんでさわいでるの？

C：こわがってる。めえ～めえ～(口々に)

T 29：スーホには、こんなことわかってないよなあ。

C 16：なんか、変なことが起ってる！(じゅき)

C17：なんか事件が起こってる。(なおき)

T30：ほんで、駆け付けたんやなあ。さあ、どうや？どっちや？じゃあ、こっちは、どう？こっち読んで。

C：「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。」

T31：これは、何に感謝しているの？

C18：白馬。だって、白馬が来ないと、ひつじが食われてたもん。(じゅき)

T32：そうやな。ひつじを守ってくれたことに「本当にありがとう。」って言ってるな。じゃあ、ここからは言う必要ないやん。

C：確かに。(口々に)

T33：読んでみて。

C：「これから先、どんなときでも、ぼくは、おまえといっしょだよ。」

T34：なんで、こんなん言うたん？

C：……

T35：分けて考えようか。「これから先」って、いつから先？

C：今から先(口々に)

C18：今から死ぬ時まで。(じゅき)

T36：じゃあ、これまでは

C18：今までは思ってた。(りくと)

T37：これまでは、これ(ぼくは、おまえといっしょ)がなかった時があったわけや。

C19：ほんまや。(むつき)

T38：すごく大変な時に、自分はそばにいいひんときがあったわけや。いつ？

C：おおかみとたたかっていたとき。(口々に)

T39：ほんで、白馬は、冷静やったんか？

C：あせってた。必死。(口々に)

T40：汗かきながら、冷や汗かきながら、殺されるかもしれんおおかみとたたかい続けていたんやな。ずいぶん長い間。それを知ったスーホは、今、どうしてるの？

C：なでる動作。(何人か)

T41：前に白馬が汗まみれでいる。さあ、スーホはどうしてるの？

C：なでる動作

T42：「本当にありがとう。」の後、他の気持ちがあったから、次の言葉が出て来たんやな。それは、なんやと思う？「これから先……」の前に、何が言いたいのかな？

C20：白馬がおおかみに殺されかけたから言った。(りくと)

C：ああ～(口々に)

T43：命をはって、怖い思いをしておおかみとたたかい続けた白馬に、「こわかったやろう？」って言ってるん違うか？

C21：そりゃあ、一理あるかも。(なおき)

T44：怖かったやろう？大変やったなあ。こんなことをお前 1 人にさせて、すまなかったなあ。もう、こんな思いはさせないよ。これから先、どんなことがあっても、ぼくは、お前と一緒にだよ。ということなんと違うか？

C22：ああ、そういうことか。(なおき)

T45：じゃあ、どっちなん？

C：指示調べ ①15人 ②11人

C23：ええ？(2)やろう。なんで、まだ、①がいるの？(むつき)

T46：じゃあ、理由を出し合おう。

C24：まだ、誰も行ってない所があるっていうこと？(みいな)

C：ももかさんが言ったところ？

T47：読んでみて。

C：「スーホは、おおかみをおいはらって、白馬のそばにかけよりました。」

T48：ここで、問題できない？

C25：なんで、ひつじではなく、白馬のそばにかけよったのか？(りくと)

C26：おおかみとたたかい続けていた白馬のことが心配やったから。(ひろと)

C27：白馬に話しかけたいことがあったから。

T50：それは何？

C：「よくやってくれたね、白馬。本当にありがとう。」と「これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ。」

T51：ひつじをまもってくれた感謝は、どっち？

C：初めの方。

T52：じゃあ、後半は？もう一度、指示調べをしてごらん

C：指示調べ ①0人 ②26人。

*完全に誘導の授業になってしまった。もっと、対立のための細かい対立を仕掛けて、子どもたちに考えさせる授業にしていかなければならないと、授業記録を起こしていて痛感した。子どもたちが停滞してきたと思ったとたんに、誘導に陥ってしまう自分の傾向が顕著に表れた授業である。

*「これから先、どんなときでも、ぼくは、おまえといっしょだよ。」の自分の解釈に問題があったので、なかなか子どもに落ちなかったのだと思う。

